

フィードバック風

(現場)からの

宮田守男

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

や、人口減社会の到来による農業以外の雇用機会が増大し、後継者不足が年々深刻になるばかりだ。また小規模ながら野菜を生産して、地場直売場に出荷していた中高年の層にも、雇用の誘いが多くなってきた。

大北地域は、標高がもたらす良質な野菜生産地である事は疑う余地もない事実だ。しかし消費人口が限られ大消費地からも遠く、季節間の消費動向も激しく変動、地域に合う野菜品種を大量栽培しても、今までは市場出荷しか販路の展開ができない現実が生産者が直面していた。また人材

不足や、働き方改革の影響で宅急便等の運賃が上昇し、インターネットによる個人間の取引にも影響が心配されている中、昨年から高速バス路線を活用した、「貨客混載」への取

る事業だ。貨物を輸送する人材に苦慮する業界と、人口減社会に乗客の大幅な減少が予想される運輸業界。空気を運ぶより、空きスペースを活用して収益を求める画期的な取り

別商品化が実現している。実現できた大きな要素は、貨物の積み下ろし作業だ。バス運行会社が行うのではなく、京王グループと高山市の協力が実現できた事

「貨客混載」事業への取り組みで地域農業の可能性を考えてみませんか

り組みが注目されている。

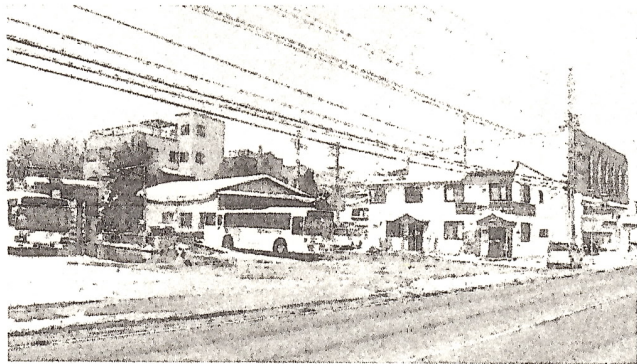
「貨客混載」とは、

バスの一部の座席に固定された毛急便の保管庫を設置するか、高速バスのトランクを活用するなどして乗客と貨物を一緒にして運行す

組みに見える。既に昨年9月、京王電鉄と岐阜県高山市が「貨客混載」事業をスタート。飛騨高山の農産物を東京に輸送して、京王ストア「キッチンコート永福町店」で販売、飛騨高山産の農産物の差

だ。出荷の集約から積み込みまで誰が担当するのか、当然「バススタ新宿」での積み下ろしは不可能、回送されたバスからどの場所まで誰が下し、店舗まで配達させるのか。これら諸問題を解決できたバス

JR白馬駅南に位置するアルピコ状から、地元交通関連施設、大北地域農業と大消費地とを結ぶ展開を夢みたい



「煩雑で面倒」「流通規模が限られ、効果が期待できない」と否定するのでなく、地域農業経営に意欲を持つ農家を守るために、「貨客混載」事業に今後の農業の将来を託してみてもいいだろうか。

会社、京王電鉄バス。既に大北地域にアルピコ交通と新宿・白馬線を共同運行している現 白馬村森上) (NPO法人信州地域社会フォーラム理事・